

大東亞の再建と純粹科學

今日國民の第一指導原理は云ふ迄もなく戦に勝つといふことであつて、我々科學者は苟も戰勝目的に寄與し得るの途あらば、進んで我等の知囊を傾倒し、職域奉公の誠を致さんとするものである。それと同時に國民の總力を擧げて努むべきは大東亞の新秩序建設である。これを完遂することによつて始めて我が忠勇なる將兵の尊き靈は安らかに眠ることを得、茲に大東亞戰爭は有終の美を收めることが出来るのである。思へば我等の途は眞に雄大にして且つ遼遠であり、その發足は既に柳條溝に於て運命付けられて居たのである。そしてこの世界歴史轉換といふ大業の科學面は一に我が科學者が擔當すべき榮譽と責務とを有することを思へば、我等感奮して皇軍の大戰果に應ふるの道を全うせねばならぬ。

戦に勝ちつゝ大東亞の再建を行ふことは決して容易ではない。今日我が海陸軍が敵に對して示して居る優位を、政治に於ても經濟に於ても將た又文化に於ても同様に占有することに依て始めてその目的を達し得るのである。これが爲に我が科學並に技術の果すべき任務は眞に廣汎多岐に亘るものである。例へば新兵器の案出を始めとして、產業の擴充、國民生活の確保より進んで東亞共榮圈の物資の不足並に過剰の調整に到る迄、一として科學者並に技術者の手を経ないものはないと言つて好いであらう。それがために科學者及び技術者の不足を來すことは當然で、既に當局に於てもその増員養成の手段が講ぜられつゝあるが、それも尙相當の年月を要するのである。

斯くの如く人的並に物的資源の缺乏せる現状に於ては、純粹科學は自然に閑却せられ勝ちとなるのは止むを得ないことである。然し我が科學者は上述の多くの責務を果すと共に、かゝる不利なる狀況の下にあり乍ら、純粹科學の振興に精根を盡すべき義務があるのである。その第一の理由は應用を全然度外視した純粹科學の進歩が、技術の劃期的躍進を齎すものであるといふことは歴史的事實の證明する所であつて、大東亞戰爭の有終の美を濟すための百年に亘る長期建設に於ては、純粹科學と技術との渾然一體をなす進展は絶対に必要

である。

第二に斯る純粹科學の躍進は、東亞共榮圈内に於ては我が日本を指いて他にこれが實現を求むることは困難であるからである。即ち各國をして各自の所を得せしめるとは云へ、從來の傳統に於ても現在の實力に於ても將た又國土計畫の上よりするも、純粹科學は我國に於て育成せしむるが最も策を得たものである。自分は最近滿洲の科學並に技術の情勢を覗ふの機會を得たが、その目標とする處は滿洲資源の開發といふ急務であつて、從つて應用を目的とせざる純粹科學の發育すべき餘地は極めて尠ないと思ふ。これは國土計畫上當然のことと、先年臺灣を旅行した時にもこれと全く同じことを痛感したのであつた。東亞共榮圈は果して何處迄の範囲を含むものであるか不明であるが、孰れに於ても同様のことが云へるであらう。從つて東亞共榮圈の純粹科學は我國に於てその育成を擔當しなくてはならぬものであり、そしてその結果を各地に應用すべきである。

次に第三の理由として、從來我國の科學は歐米の研究結果を取り入れて發達して來たものであるが、今日の戰争はその交流を不可能とした。從つて今後我國の科學は我國に於て創造せられねばならぬ。然るに我國は科學者の數に於て又豫算及び資材に於て歐米に比べて著しく少ないのであるから、我が科學者は恐らく數人前の努力をしなくては、歐米の科學に匹敵する進歩を齎すことは困難である。そして戰争が濟んで蓋を開けた際に我國の科學が著しく見劣りのする様なことがあつては、我國の威信にも關することであり、大東亞の新秩序建設にも色々の意味に於て支障を來すであらう。それでは皇軍の大戰果に對して洵に申譯のない話である。

以上の理由により我々科學者は今日の極めて困難なる環境の裡に在り乍ら、何人前かの努力を續けて純粹科學の振興を圖るべき決意を要する。これは恰も 5 對 3 の惡條件を克服するために、黙々として猛訓練を續けて來た我が海軍將兵の覺悟にも比すべきものであつて、我々は彼の心を心として奮勵精進せねばならぬ。

(仁科芳雄)